



「オランダで学んで」

西部中会 園田教会牧師
石原知弘

昨年（2013年）の夏にオランダから帰国し、神学校の非常勤講師としての働きに復帰しました。組織神学を担当させていただいています。あらためまして、よろしくお願いいたします。

私たちの教会と友好関係にあるオランダ・キリスト改革派教会の教育機関であるアペルドールン神学大学で学んできました。言葉や習慣の違いはあっても、やはり神学校という場所には共通した霊性というものがあり、充実した時間を過ごすことができました。女子学生も多く学んでいました。女性の教師は認められていない教派ですが、キリスト教主義の学校で働いたり、カウンセリングの仕事に就いたりするとのこと。牧師以外にも広く神学の学びが活かされる場があるというはうらやましいかぎりです。私たちの教会では、女性も教師・長老として任職を受けることができるように政治規準の改正が決議されました。私自身はこのことを願っていた者として喜んでいますが、同時にオランダの教会のことを思い起こしながら少し別のことも考えさせられています。それは、男性であれ女性であれ、そもそも簡単に教師になれるわけではないということです。当然と言えば当然のことですが、特にオランダの保守的な教会では男性でもなかなか教師にはなれません。少し極端に思えるほど厳しい教派もあります。それぐらい、教師という務めの重さが自覚されているのです。

私たちも厳しくしようと言いたいわけではありません。ただ、確かに聖書には、「監督は、非のう

ちどころがなく」（テモテー 3 章 2 節）とあります。ハードルの高い言葉です。しかし、はっきりとした指示です。考えさせられるのは、男女をめぐる聖書の解釈について深く考えてきたほどに、例えばこの「非のうちどころがなく」という御言葉を真剣に受け止めてきたかどうかということです。門戸が大きく開かれ、これからの取り組みが問われようとしている中であるからこそ、あらためて御言葉にかたく立ち、教師また長老になるということの責任の重さを覚えたいと思っています。

もちろん、完璧な人間であるという意味で非のうちどころがないという人はいません。ふさわしくない者が、ただ恵みによって召され、用いられるということは真実です。ですから、まず求められることは、その神の恵みに対する信頼において非のうちどころがないということでしょう。そこから、よりふさわしい者へ、あらゆる点で非のうちどころのない者へと成長させていただきたいものです。

今年 11 月、約一年ぶりにオランダに行き、神学大学を訪ねてきました。都市部を中心に教会離れも深刻化するオランダですが、今年は例年以上に多くの献身者があったとのことで、活気にあふれていました。収穫の主は働き手を豊かに送ってください。「監督の職を求める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる」（テモテー 3 章 1 節）。私たちの神学校にも多くの学生が与えられ、女性も男性も、そして教師も、共に成長していけたらと祈り願うものです。

夏 期伝道報告

特別研究生

李 哲敏 (イ チョルミン)

西部中会 園田教会



最初であり最後であった夏期伝道は、日本キリスト改革派教会の過去・現在・未来を学べる豊かな訓練の時間でした。

猛暑と共に始まった、7月の男山教会で学び、感じた過去は、御言葉と教理をどれほど大事にし、それらからの教えを実生活上、実践しようとしてきたかでした。それは、現在の男山教会員の御言葉と教会に対する姿勢が証明していました。男山教会は、平均年齢が少し高い教会でしたが、平均年齢と共に信仰の成熟度も高い教会でした。7月の猛烈な京都の夏の蒸し暑さにも負けない男山教会の方々の御言葉と教会に対する愛と熱心は、一朝一夕に成ったものではないということを知ることができました。そして、そのような姿は、私自身を含め若い世代の学ぶべき模範ではないかと、未来のことをも考えさせられるものでした。



8月の夏期伝道は、和田山・大屋伝道所でした。両伝道所から、違う形で日本キリスト改革派教会の過去・現在・未来を学べ、一挙両得の訓練時間でした。現在、地方の地域に根ざした教会、これは、長い間地域伝道のために献身の歴史の証しであると思います。そして、その地域伝道のための献身の歴史は、信仰の継承という家族伝道と共に、今も未来に向かって現在進行中でした。和田山・大屋伝道所は、少ない会員数にもかかわらず、各世代のバランスが良い教会でした。

神様の御言葉の上にはっきり立つ地域に根ざす教会が、信仰継承と共に地域伝道のために献身すること、またその教会の歴史と共に信仰の成熟度も進む教会、これは、7月の男山教会、8月の和田山・大屋伝道所での訓練を通して、神様が私に見させてくださった、これから教会に仕えるべき私たち世代の目指すべき青写真のようでした。



最初の夏期伝道先の発表の時から、最後の感謝の手紙を書き終えるまで、完全なご計画で導いてくださった神様に心より感謝を申し上げます。また、男山教会、和田山・大屋伝道所の先生方と教会の皆さんにも感謝します。

夏期伝道派遣教会

- 李哲敏 : 男山教会 / 和田山・大屋伝道所
 小澤寿輔 : 高知教会 / 横浜教会
 金田知朗 : 白石契約伝道所 / 仙台めぐみ伝道所
 坂部勇 : 高松東教会 / 厚木教会
 川栄智章 : 東広島伝道所 / 中津川教会
 朴徹 : 豊明教会 / 園田教会



本科生 3年生
小澤寿輔 (おざわとしすけ)

東部中会 東京恩寵教会



7月は四国中会の高知教会、8月は東部中会の横浜教会で奉仕することが許されましたが、そのときの喜びは、いまだ心から離れることはありません。派遣教会が決まると、それぞれの教会と奉仕内容を確認し、自分に与えられたすべてを主に用いていただけるよう祈りつつ準備をしました。その祈りの中で、三つの思いが与えられました。第一に、無牧の教会を励ましたいという思いです。私自身、無牧の教会を経験したことがありますので、全力で説教準備に取り組むことはもちろんのこと、お一人おひとりに心を注いでお仕えしたいと願いました。第二に、教会員の霊的成長をお手伝いしたいという思いです。聖書の学び会に向けてテキストを作成しました。第三に、魂の救いを見たいという思いです。どちらの教会にも、ぜひ伝道に用いていただきたいと申し出ました。

いよいよ夏期伝道が始まりました。高知教会でも横浜教会でも、教会員の方々に暖かく迎えていただくと、主日礼拝の説教、午拝説教(高知教会)、

教会学校のお話(横浜教会)、水曜(木曜)祈禱会の説教、特別伝道集会の説教など、週に3つの説教を準備しました。また、病院や老人ホームへ信徒さんを訪問したり、平日に教会訪問者の対応もありました。どちらの教会の信徒さんもとて親しみやすく、このような足りない者の働きさえも喜んで受け入れてくださいました。炎天下、共に礼拝案内を配布したのも、とても良い思い出となっています。その上、主は高知教会に一人の回心者を与えてくださいました。無牧とはいえ、この方の信仰が洗礼まで守られ、信仰生活が教会で育まれることをお祈りしています。

今回の夏期伝道を通して、それぞれの教会の素晴らしい方々との出会いと、主の御業を仰ぎ見ることが許されましたことを心から感謝いたします。また、2ヶ月間私たちを送り出してください、祈り支えてくださった神学校と各教会の皆様へ感謝します。



本科生 2年生
金田知朗 (かねだともあき)

東関東中会 銚子栄光教会



六月の第三学期の試験を終え、初めての夏期伝道に向けて神学校を後にしました。私の夏期伝道先は、七月は白石契約伝道所、八月は仙台めぐみ伝道所と二ヶ月間、東北の地での奉仕でした。

七月の白石伝道所の主な活動奉仕は、水曜日の祈禱会と日曜日の午後三時から行われる主日礼拝、そして子供達に向けてのメッセージでした。祈禱会は伝道所で二回、小林姉の家庭にお邪魔し、家庭集会の形で一回と合計三回実施しました。悪天候のため、一度は実施が危ぶまれた祈禱会もありましたが、教会員の方が所定の時間に来られ、共に祈ることができる至福の時をもつことができました。主日の礼拝奉仕では、午後三時からの礼拝開始のため、午前中から会堂内外の清掃をじっくり行うことができ、万難を排して皆さんをお迎えすることができ、感謝でした。



仙台めぐみ伝道所の夏期伝道では、OPCの配慮により東北の各伝道所を訪問することができました。まず山形伝道所を皮切りに青森、六戸、八戸、盛岡、亶理、石巻の各伝道所を訪問し、それぞれの地での牧師先生のお働きやそれを支える教会員の方々とのお話を聞くことができました。特に、亶理伝道所の林先生と共に、のぞみセンターやセンター近くにお住まいの方の家にお邪魔し、震災からこれまでの実情を聞くことができたことはとても有益でした。また、石巻伝道所の白津先生には市内をくまなく案内していただき、震災後の市内の復旧や今でも残っている傷跡を知りました。八月のめぐみ伝道所には、多くの外国の方や高校生が主日礼拝に参加し、自分が予め用意したメッセージの原稿が通用しない状況に遭遇し、自分の力量がどれほどのものであるのかを強く思い知らされました。多くの方々の支えと何よりも主ご計画の中でこの夏期伝道の日々が守られたことを心より感謝しております。



私は夏期伝道で 7 月は東広島伝道所へ派遣されました。今回、最も心がけていたことは教会があるその町やそこに住む人々を理解し、愛していくことでした。

東広島伝道所は、元々は障害をもたれたご夫婦の家で小さな群れから礼拝が捧げられ現在の会堂建築に至り、丘の上の綺麗な新会堂にはいたる

本科生 3年生
川栄智章 (かわえともあき)

西部中会 神港教会



所に細かい配慮がなされていました。屋根の上には十字架が高くそびえ、外壁には「日曜日は教会に行きましょう」とあり、週ごとの説教題の掲示板も掲げられて、どんな方でも教会に来てほしいという宣教への情熱に溢れていました。歌を歌うのが本当に大好きで神様を心から賛美する教会でした。私は、今自分たちにできることをするという皆様の前向きな姿勢に心打たれました。奉仕者がいない状況の中で献身的な音楽の奉仕によって礼拝が守られており、そこには目に見えないご苦労と努力がありました。



8月には中津川教会へ派遣されました。家族三人で訪問することが出来ました。中津川の兄弟姉妹は本当に、施し分け与えおもてなしが上手な方々でした。祈禱会には、各々手作り料理を持ち寄ってくださいました。妻も韓国料理を振舞い中津川

の兄弟姉妹に喜んでもらいました。ある姉妹が毎週おいしいスイカやメロンなどを持ってきてくださり主日、礼拝を捧げた後に皆さんと一緒に交わりながら頂きました。彼女はまだ洗礼を受けていないのですが未信者の友達を二人も礼拝に連れてきてくださり、そのうちの一人とは友達となりました。早く彼らが洗礼に迄導かれるように祈って行きたいと思えます。最後の週は病院訪問をしました。入院中のアルツハイマーの姉妹は、家族の記憶さえおぼろげのようでしたが、讃美歌と一緒に歌うときは共に喜んで賛美できました。お年を召しても積極的に奉仕をして皆で教会を守ろうとする兄弟姉妹の信仰に感動しました。

東広島の兄弟姉妹、中津川の兄弟姉妹に心から感謝申し上げます。



本科生 3年生
坂部 勇 (さかべいさむ)

中部中会 静岡教会



主の御名を賛美します。私は7月に高松東教会へ、8月に厚木教会へと遣わされ、豊かな恵みと祝福を受けることができ感謝しています。私にとっては2回目の夏期伝道となりました。昨年は緊張のあまり教会の方々と打ち解けて接することができず、ぎこちない対応になってしまったという反省がありました。今年はできる限り自分から心を開き、教会の方々と交わることを夏期伝道の

課題としました。

高松東教会は平井教会と栗林教会とが合併してできた教会です。近くに春日川が流れ、水田と住宅とに囲まれた中にあります。素朴で温かみのある教会でした。厚木教会は小田急線沿線で新宿や横浜まで1時間の通勤圏内のベッドタウンにあります。みなさんとても親切で、明るく親しみのある教会でした。

教会から課せられた奉仕内容は二つの教会とも主日礼拝の説教と定例祈禱会の奨励および小会などの会議への出席でした。主日の説教は両教会ともフィリピの信徒への手紙から私たちはみな主イエスと結びついていることを教会のみなさんと共に学びました。また祈禱会ではハイデルベルク信仰問答書の学びをしました。私自身がハイデルベル

ルクはなじみが薄いこともあり手探りの状態での学びでしたが、出席した方々に助けられながら良き学びの時を持つことができました。また、両方の教会で家庭集会を持てたことは感謝でした。課題の達成度は50%であったと自分では判断していません。

両教会での夏期伝道を通して、自然体に近い状

態で教会のみなさんと交わりをもつことができたことが私にとって収穫でした。どちらの教会にももつと滞在したかったのですが、主から課せられた神学校での学びと訓練が残っていると思い、次の派遣先へ向かい、また神学校へ戻りました。こんなに素晴らしい夏期伝道を体験させて下さった神様に感謝を奉げます。

特別研究生
朴 徹 (パク チョル)

大韓イエス教長老会合同派
宣教師



主のみ名を賛美いたします。私は、去年9月に神戸改革派神学校に入学したので、夏期伝道は今回が初めての経験でした。残念なことに来年の6月には卒業が予定されていて、今回の奉仕が自分にとっては、最初で最後の夏期伝道になります。

7月には、豊明教会へ、8月には、園田教会へ遣わされ、神様からの豊かな恵みを受けたことはもちろん、信徒の方々との良き交わりの機会が許されたことに心から感謝しています。外国人の貧しい日本語の説教であったにもかかわらず、心温かく受け入れてくださった、両教会の皆さんには、今でもありがたいと思っています。

夏期伝道に臨むにあたり、自分には幾つかの目標がありました。第一に、み言葉をしっかり伝えること。それに加えて、「み言葉を伝える」だけではなく、「学ぶ」という気持ちが、心の中で非常に強かったので、とりあえず、たくさんの方を「学ぼう」、「教えていただこう」ということでした。来日してすでにかかなりの時間が経ちましたが、しかし、日本の教会について、日本人について、どれほど理解しているのかと考えると、未だによく分からないところがある、と思う時があります。ですので、今回の夏期伝道を通してもう少し日本の教会の本当の姿を見たい、知りたいと思ったのです。日本の教会をしっかりと学んだ上で、韓国の教会での経験を日本の教会での働きにおいても、生かすことができたら良いと思います。

2ヶ月という長いと言えば長い、短いと言えば短い夏期伝道でしたが、卒業までの、また、その後の働きに向けての新しい目標を立てるための有益な時間になったと思います。至らない者に良い機会を与えてくださった神学校や教会の皆さんに、もう一度感謝の気持ちを申し上げます。何より豊かな恵みを与えてくださった神様に感謝を捧げます。





本科生 3年生 小澤寿輔（東京恩寵教会）

昨年9月に神戸改革派神学校本科に編入を許され、感謝しています。妻と私は、フランスのパリにある日本人教会で出会い、結婚に導かれました。パリ滞在中、欧州の多くの日本人教会・集会が無牧のために霊的に飢え渴いている状況を目の当たりにする中、イザヤ書6章8節の御言葉を通して召命を受けました。その日以来、「海外邦人宣教」という夫婦共通のビジョンをいただき、教会での奉仕に加え、青年聖書の学び会や個人伝道など、小さいながらも出来ることをさせていただいていました。

日本帰国後、神の召しに応答し、ある福音派教会の訓練学校に学び始めました。確信をもって御言葉を大胆に語れるようになるために神学を更に学ぶ場を祈り求めていると、2009年、不思議と韓国の高麗神学校（大韓イエス教長老会高神派から枝分かれした保守的な教団の神学校）への道が開かれ、家族4人でソウルへと渡りました。私はそこで卒業まで3年間学び、改革派信仰と神学に出会いました。それと並行して韓国長老教会の日本語礼拝部担当宣教師として4年間牧会する機会も与えられました。

そんな私たちに再び日本への道が開かれました。一時帰国中、妻が所属する東京恩寵教会で礼拝を捧げたとき、三野孝一先生から日本の改革派教会の無牧化が進んでいること、そして、私自身が更に神学を深める必要があることを知らされました。一年の祈りを経て、日本に本帰国する決心ができました。残りの人生を日本キリスト改革派教会に仕えるためにお届けできれば喜びです。以後、どうぞ宜しくお願い致します。



本科生 3年生 川栄智章（神港教会）

私は、神戸改革派神学校3年の川栄智章と申します。26歳の時洗礼を受けました。なぜ、洗礼に導かれたかを記します。私の家族は全員未信者なのですが、実は、私は大学生の頃統一教会に通っていました。そして大学を卒業後、就職もせずにそのまま統一教会に献身してホームと呼ばれていた施設で統一教会の信者と共に共同生活をしていました。しかし、神様の憐れみによって、家族やキリスト教会の先生方の助けを得、統一教会から脱退でき、引き続き統一教会の聖書理解と教会の聖書理解に、どのような違いがあるのかを学んでいきました。結果的に未信者の両親を通して、私はイエス様を受け入れて日本基督教団東大宮教会にて洗礼にまで導かれました。

その後、信仰生活の中で妻と子ども与えられました。妻の国籍は韓国です。娘は今年小学校5年生になりました。妻が韓国人ということもあり韓国へ渡り、神学を学ぶため合同派の総神学大学院で学びました。卒業後日本の改革派教会で宣教するため、2014年の1月に神戸改革派神学校に編入しました。教会籍も神港教会に受け入れていただきました。こちらでの学びは韓国とは違い、少数制で本当に丁寧に学ぶことができ、分からないところなど細やかな質問に理解できるまで応えてくださり毎日授業を通して本当に感動しています。

全ての学びにおいて教会を建て上げるための実践面意識されながら教えてくださり本当に多くのことを学ばされています。神学校で与えられている残された時間を大切にしながら最善を尽くし学業に取り組んでいきたいと思っています。



Photo Matumura Izumi

「神学校には7人の職員が働いています」

事務長 植田昌彦

職員紹介

これまでは校報に職員が登場することはほとんど無かったと思いますが、この度吉田校長から何か書くようにとの依頼があり、今回は職員の紹介をしたいと思います。

神学校の職員は全部で7名です。7名の内、正規の職員は3名、嘱託1名、アルバイト3名です。図書館2名 - 松田美緒（西神教会）・松村泉（神港教会）、業務は書籍の購入登録分類整理、閲覧貸出、外部からの在庫調査やコピー依頼等色々な依頼への対応等）、事務室2名 - 太田恵子（板宿教会）・植田昌彦（伊丹教会）、経理・庶務・総務・資材購買・学事補助・書籍販売・資料作成等事務業務全般）、施設管理1名 - 森島修許（園田教会）、建物管理・各種機器修理・校内植栽管理・学校行事事前準備等）、厨房2名 - 中山清子（鈴蘭台教会）・金原悦子（鈴蘭台教会）、神学生や教職員の昼食・夕食作り、学校行事の食事準備等）これが全てです。

神学校の授業は、基本的には火曜日から金曜でするので、図書館や厨房は火曜日から金曜日

に出勤し、事務室と施設管理は月曜日から金曜日出勤となっています。住込みは施設管理人のみで、後は全て自宅からの通いになっています。全て近隣の改革派教会の教会員です。時間的にも人的にも経済的にも限られた中で、全員がチームワークよく、多くの業務を毎日助け合いながら精一杯こなしています。更に多くの点で、神学校にお住いの教授のご家族や神学生のご家族に助けられながら神学校が運営されています。

私たち職員の願いは、毎年10名の神学生が与えられることです。毎年それだけの新入生を受け入れる準備ができています。神学生が1人でも多く与えられることが、私たちにとって何よりの励みです。そして多くの神学生が、この神学校での学びの中で、み言葉を語り教会を牧するに必要な備えをされ全国の教会へ送り出されて行くことが、神学校に召された私たち職員の心からの願いです。これからもお祈りとお捧げものをどうぞよろしくお願いいたします。



事務と管理



図書館



厨房（中山さんと1月からの職員です）

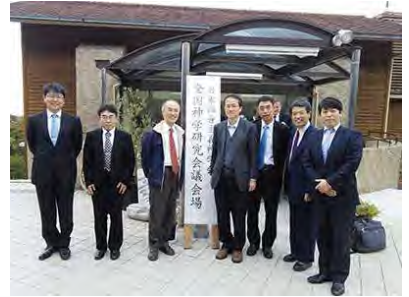
日本福音主義神学会 第14回全国神学研究会議に参加して

坂部 勇(3年生)

去る11月4日(火)から6日(木)の日程で奈良県生駒市にある関西聖書学院において開催された日本福音主義神学会第14回全国神学研究会議に本校から吉田校長、袴田教授そして3年生4名が参加しました。今回の研究会議は毎年2回行われている各地区部会とは異なり全国の神学校教師、牧師、神学生が集まる全国規模の会議であり、教派内とは一味違う主にある交わりを感じることができました。

今回の全体のテーマは「福音主義、その行くべき方向—聖書信仰と福音主義の未来—」です。この観点から、福音主義とは聖書信仰を中心とした運動であると、提示されました。福音主義神学会の聖書学への熱心な取り組みから、私たち改革派陣営も多くのことを学ぶことができると確信いたしました。

また、聖書の釈義という点では、創世記の1章から2章における創造の記述を聖書信仰からどのようにとらえるのか、翻訳聖書における靈感の問題も含め新約聖書中の旧約引用をどのように釈義するのか、またここ最近に日本の福音主義にも影響力をもってきている「パウロ書簡の新たな見方」についてどのような態度で臨むのか、という多くの新たな視点を与えられました。総括すると、今回の会議に参加して知的刺激を受けたと同時に、自己の神学をいかにより高いレベルで確立していくのか、その教派神学に立ちながら他の福音主義陣営とどのように一致していくか、という大きな課題が与えられました。



2015年 神学校主要行事予定

第二学期

- 1月 5日 (月) ● 一斉開講準備
- 6日 (火) ● 第二学期開講講演 (講師 吉岡契典講師)
- 10日 (土) ● 入学願書締め切り
- 2月 6日 (金) ● 全校祈祷日 (講師 漆崎英之先生)
- 17日 (火) ● 入学試験
- 3月 6日 (金) ● 第二学期最終講義
- 10日 (火) - 13日 (金) ● リーディング・ピリオド (含補講)
- 17日 (火) - 20日 (金) ● 学期末試験

第三学期

- 4月 2日 (木) ● 一斉開講準備
- 3日 (金) ● 第66回入学式、第三学期開講講演会 (講師 橋谷英徳講師)
- 5月21日 (木) - 22日 (金) ● 神学校リトリート (講師 牧野直之 元 OMF 宣教師)
- 6月 5日 (金) ● 第三学期最終講義
- 9日 (火) - 12日 (金) ● リーディング・ピリオド (含補講)
- 16日 (火) - 19日 (金) ● 学期末試験
- 19日 (金) ● 夏期伝道派遣式
- 23日 (火) ● 第63回卒業式

夏 期

- 6月24日 (水) - 7月 8日 (水) ● ギリシャ語文法集中講義 (予科生)
- 7月 1日 (水) - 8月31日 (月) ● 夏期伝道 (1, 2年生)
- 10日 (金) - 11日 (土) ● 第39回夏期信徒講座
- 14日 (火) - 31日 (金) ● ヘブライ語文法集中講義 (予科生)
- 8月11日 (火) - 9月4日 (金) ● ヘブライ語文法集中講義 (予科生)

第一学期

- 9月 7日 (月) ● 一斉開講準備
- 8日 (火) ● 第一学期開講講演会 (講師 金原義信講師)
- 10月13日 (火) - 15日 (木) ● 第70回定期大会
- 11月 6日 (金) ● 第18回神戸改革派・神戸ルーテル神学校合同神学シンポジウム
- 27日 (金) ● 第一学期最終講義
- 12月 1日 (火) - 4日 (金) ● リーディング・ピリオド (含補講)
- 8日 (火) - 11日 (金) ● 学期末試験
- 11日 (金) ● クリスマス礼拝・祝会

発行

2014年12月21日発行 / 発行所: 神戸改革派神学校 / 〒651-1306 神戸市北区菖蒲が丘3丁目1-3
TEL (078)952-2266 / FAX (078)952-2165 / 振替 01140-5-12672 / e-mail : rcj-kobe2266@nifty.com